

ソフトウェア開発の枠を越えて

～ Rationalの新たなビジネス・ソリューション ～

ソフトウェア開発プロジェクトの生産性と信頼性を向上するためのソフトウェア開発プラットフォームを提供してきたRational®がIBMのソフトウェア・ブランドに加わり1年半になります。WebSphere®、DB2®、Lotus®、Tivoli®の各ブランドとの協調も進み、ソフトウェア開発ライフサイクルの「Build」だけでなく「Run」「Manage」を含んだライフサイクル全域を網羅するソリューションをご提供できる体制にあります。本稿では、この協調体制をさらに生かし、ソフトウェア開発ライフサイクルのみではなく、お客様のビジネス・プロセス改善を視野に入れた新しいアプローチであるPAFF (Process & Activity Flow Framework) [1]において、Rationalのソリューションがどのようにお客様のビジネス・プロセス改善に貢献するのかをご紹介します。

① Rationalのソリューション

Rational®はソフトウェア開発プロジェクトを経済的側面からとらえ、ソフトウェア開発に掛かる労力をいかに最適化するかに注目しソリューションを構築してきました。

図1の右辺における各パラメーターを最適化するための技法、標準プロセス、教育、コンサルティング・サービスそして要求管理からテスト・構成・変更管理までをカバーするツール群がRationalのソリューションです。

これらのソリューションは、実際のソフトウェア開発プロジェクトにおけるベスト・プラクティス(最善の経験則)を基に洗練され今日に至ります(図2)。

特に標準ソフトウェア開発プロセスであるRUP (Rational Unified Process®)では、ベスト・プラクティスをどのように実践すべきか、プロジェクト・メンバーの役割(役割)、何を(成果物)、いつ(ワークフロー)、どのように(アクティビティ)、生成するのかをガイドしています。

労力=(規模)×(プロセス)×(要員)×(品質)×(環境)

- ・ 労力: 開発にかかる工数
- ・ 規模: システムの規模・複雑さ
- ・ プロセス: 開発に用いたプロセスの成熟度
- ・ 要員: プロジェクト・メンバーのスキル

図1. ソフトウェア開発の経済的側面 [2]

Article 2

Beyond the Software Development Capability

- Rational is the new key for the Business -

Rational® — the significant leader of software development platform for the year — , now aim to business itself.

After the acquisition by IBM, Rational could be associated with WebSphere®, Tivoli®, Lotus® and DB2®. It means Rational can get more "weapon" to face for the software development field.

Now Rational can provide solution from "BUILD" to "RUN" and "MANAGEMENT" .

This paper describes Rational's new approach PAFF (Process & Activity Flow Framework), which enables linkage between business level modeling and IT level development.

② ソフトウェア開発自体がビジネス・プロセス

Rationalは、ソフトウェア開発ツールのみではなく、標準ソフトウェア開発プロセスRUPそのものをソリューションとしてご提供していますが、少し視野を広げるとソフトウェア開発自体が企業のビジネス・プロセスの一つであることに気が付きます。IBMが提唱するオンデマンド・ビジネスの世界では、企業は市場の変

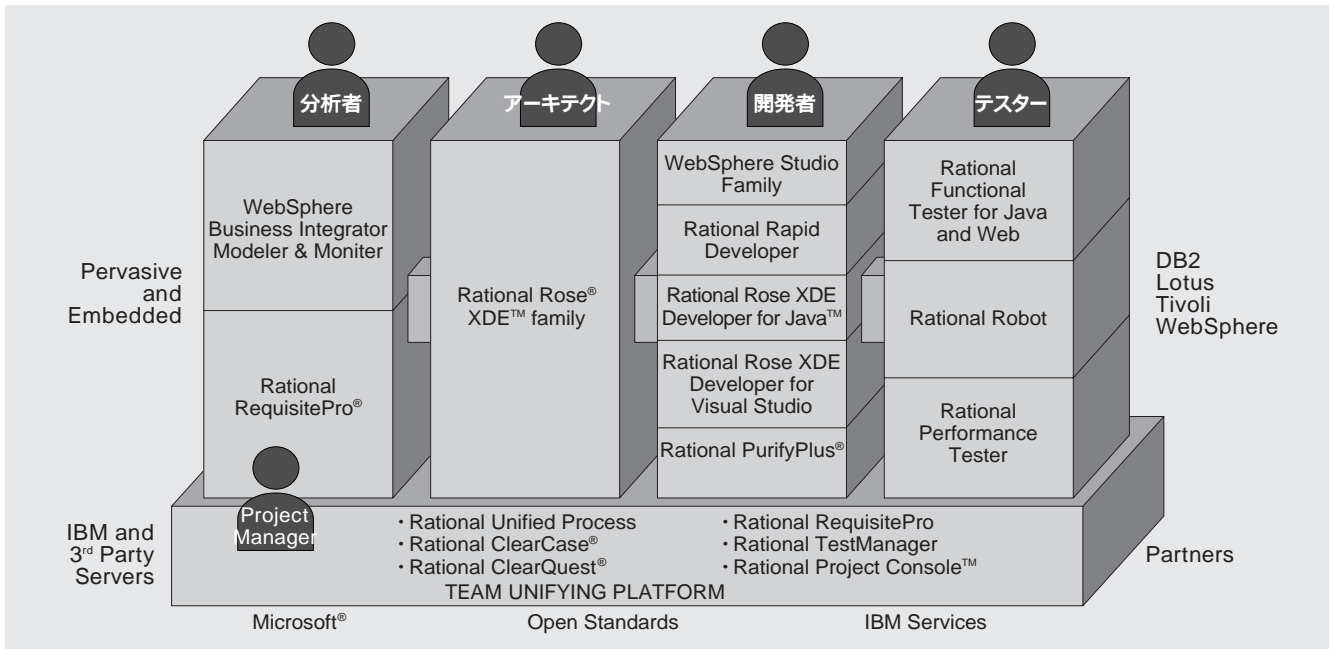


図2. Rationalソリューション

化に柔軟に対応し、競争に勝ち抜くためのIT (Information Technology: 情報技術) インフラストラクチャーが不可欠であり、それは取りも直さずIT インフラストラクチャーを構築するソフトウェア開発自体が企業の重要なビジネス・プロセスであることを意味しています。ベスト・プラクティス、ツールによりこのソフトウェア開発というビジネス・プロセスを改善するご支援をさせていただいているのがRationalです。

ソフトウェア開発業務の流れには一般的に、システム化すべき特定業務の分析、システムに対する要求の管理・分析、設計・実装・テスト・導入そして全体の流れを監視・管理するプロジェクトマネジメントと構成変更管理作業が存在します。開発プロセスの改善には一般的なビジネス分析の手法が用いられ、各作業分野における問題の洗い出し、改善策となる開発技法・プロセスの導入 (BPR: Business Process Re-engineering)、開発支援ツールによる自動化 (システム化) が行われます。

③ ビジネスとテクノロジーのギャップを埋める

ここで、ITシステムをお使いになっているお客様のビジネス・プロセスに目を向けてみましょう。開発さ

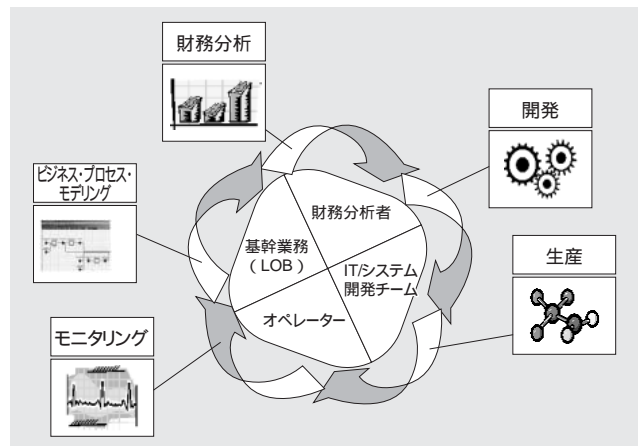


図3. PAFF概要(出典:RSDUC2004 BBT13[1])

れたITシステムは、ビジネス・プロセスの改善、ビジネス目標の達成に貢献しているのでしょうか? 多くの場合、IT / システム開発チームの目標はシステム構築の生産性のみが着目され、組織全体のビジネス目標から乖離してしまうのが現状です。ここにEA (Enterprise Architecture) のアプローチに見るように、ビジネス目標を確実に達成するためのIT インフラストラクチャーの構築が必須となる理由があります[3]。PAFF (Process & Activity Flow And Framework) は、このビジネスとテクノロジーのギャップを埋めるための具体的なアプローチを提供します。(図3)

PAFFアプローチの推進者の一人であるベン・アマ

パは、彼のホワイトペーパーで次のように述べています。

「ベスト・プラクティス、標準、ツールにより、ビジネスはその戦略ビジョンをオペレーショナル・アセット(ソフトウェア・システム)に対応付けることができる」

お客様のビジネス・プロセスを定量的なデータに基づいてシミュレートし、問題を分析し、それに対するソリューションを開発チームがソフトウェア・システムとして確実に実現するフレームワークが現実のものとなることを示しています。PAFFでは、開発されたITシステムがビジネス・プロセスの中でどのように活動しているかを定量的にモニタリングし、その結果を基にさらなるビジネス・プロセス改善のサイクルにつなげることを示唆しています。

4 PAFFにおけるRationalの位置付け

Rationalは、前述のPAFFのサイクルを現実的なものとするソリューションを既に提供しています。Rationalが、ソフトウェア開発プロセスの最適化を支援してきたことは既に述べました。これらのソリューションがPAFFのアプローチに適用できることはごく自然といえます。さらに、IBMソフトウェア・ブランドの協調によりお客様のビジネス・プロセスを分析し、監視するソリューションが現実なものとなりつつあります。各ソフトウェア・ブランドの提供するソリューションのPAFFへの対応を図4に示します。

実績あるベスト・プラクティスを基に構築されているRationalのソリューションは、今までのソフトウェア開発/ITシステム開発チームを支援する枠から、あらゆる業種のお客様のビジネスそのものを支援する枠へと飛躍的に進化しています。IBMソフトウェアとしての統合力も、この進化にさらに加速を強め、Rationalこそ、お客様のビジネス全体を強力に推進す

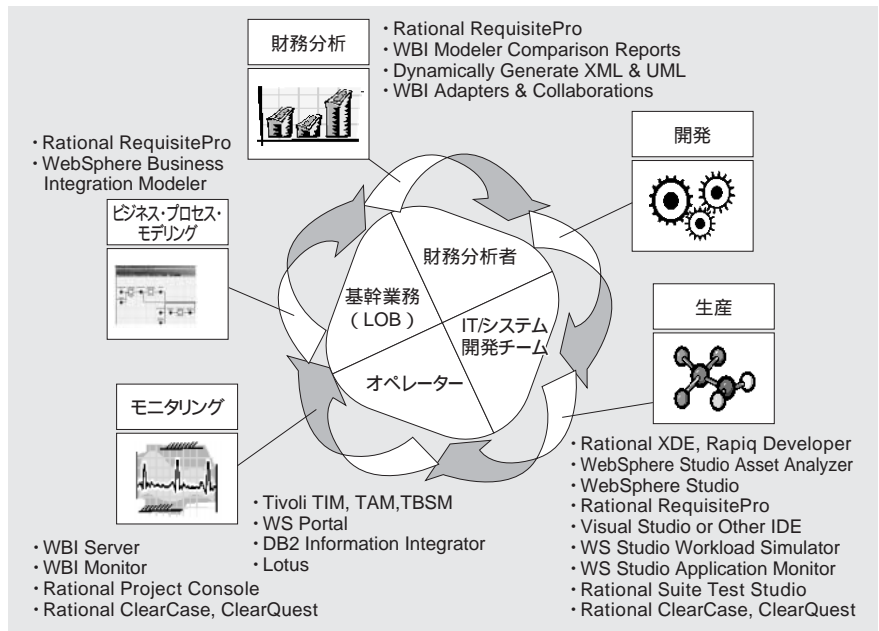


図4. Rational(太字)と他ソフトウェア・ブランドのPAFF対応

る稼働力そのものとなります。

[参考文献]

- [1] Ben Amaba, Lee Farnum, "Bridging the Gap between Business & IT: Integrating Business Process Modeling & Application Development", IBM Rational Development User Conference, session BBT13, 2003
- [2] Walker Royce(著) 藤井 拓(監訳) ソフトウェアプロジェクトマネジメント、アジソン・ウェスレイ、1999年
- [3] ProVISION, No.41 Spring 2004、特集エンタープライズ・アーキテクチャー



日本アイ・ビー・エム株式会社
ラショナル事業部
技術部
ITアーキテクト

安竹 由起夫 Yukio Yasutake

[プロフィール]

プロジェクト開発に従事、CORBAをはじめとするオブジェクト指向技術を用いた開発経験から日本ラショナルソフトウェア社に入社、現在日本アイ・ビー・エム ラショナル事業部技術部所属。